

脱原発ネットワークいばらき
DVD申し込み書

- ①田中優さん講演会DVD 500円
- ②広瀬隆さん講演会DVD 500円
- ③田中さん・広瀬さんセット 1,000円

上記を○で囲んで下さい。

コース名 _____ 班名 _____

氏名 _____ (組合員No. _____)

商品代金といっしょに請求・振替となります。

「脱原発ネットワークいばらき」より
田中優さん、広瀬隆さん講演会のDVDの頒布

特別価格 1枚 500円(税込) 右申し込み書にて
講演会に行けなかった方、もう一度じっくり聞きたい方、頒布します。



(脱原発委員会つづき)

○東海第2原発廃炉に向けた県知事包囲、周辺自治体への働きかけについて

福島県知事が福島第二原発も含むすべての廃炉要請をしており、東海第2原発はその距離からしてもいわば「福島第3原発」。

その当事者である茨城県知事が明確な態度を示さず、市民の署名提出にも出席しない。挙げ句に「今、結論早い」と発言したり、母親たちの切実な健康調査要請に対して「必要ない」などとまったく取り合わない。

脱原発委員会では、東海原発の包囲だけでなく、県庁・県知事を人の鎖で取り囲む行動が必要ではないかとの意見が出され、今後の行動について検討することとなりました。

○「東海第2原発再稼働差止訴訟」について

現在、私たち市民の目線で「訴状」を起草中。その上で、弁護団や専門家を交えて法律論、技術論からの検討を行い訴状を完成させます。現在第一次草稿を検討しています。

1月に弁護士を交えて集中検討し、2月には組合員、原告団参加意志を下された方、賛同者ほかできるだけ多くの方に検討・吟味して頂いた上で、再度広く「原告団」を募り、「住民訴訟」という形にする意向です。

論点は原発被害が被曝や避難というリスクを前提にして作られていること。法律で決められた被曝線量以上の被曝を「受忍」する、あるいは「居住や職業を奪われる」危険があることを被害が及ぶ広範な住民が「合意」しない以上認められない。基本的人権や、健康で文化的な生活権の侵害である。との論点が説明されました。

【12/1 第4回脱原発くらし見直し委員会】
(討議事項)

1. 黒部先生講演会「放射能被ばく予防Q&A」パンフレットの活用計画について
2. 県知事への署名提出、東海村・村上村長訪問報告
3. 放射能汚染に対する地域・食品の対策について
 - ・事故後1年以内にやっておくこと
 - 組合員家族行動記録・健康調査
 - 医療被曝の回避・低減注意喚起
 - エリアメッシュ土壌沈着濃度実態調査
 - 焼却灰・下水汚泥処分調査
 - 累積被曝線量実態調査(外部被曝検査)
 - 尿検査(内部被曝検査)
 - ・2012年度放射能対策・汚染測定方針
4. 子どもたちの「被曝累積線量調査」について
 - ・予備調査(ポケット累積線量計/12月)
 - ・本調査(ガラスバッチ/1月~2月)
5. 12/11つくばハイロ集会・パレードについて
 - ・12/4(日)10-12時守谷駅前にてチラシ配り
6. 東海第2原発再稼働差止訴訟の訴えの論点について
7. 脱原発への活動経過と今後の予定

脱原発への活動経過と今後の予定

- ・11/28 @グループによる県への要請行動
- ・11/28 原電とストレステスト問題で公開質問状への回答(東海村)
- ・11/29 東海再処理施設への公開質問状提出(東海村)
- ・12/3 日本有機農業研究会市民公開研究会「放射能と有機農業」(石岡市)
- ・12/11 つくばハイロ集会・パレード(つくば市)
- ・2/12 原発を語る・歌う2/12集会 賛同団体に参加
- ・2/26 東海第2発電所を人の鎖で包囲する
- ・3/20 原発事故1周年「つくば広瀬隆講演会」生協として実行委員会に参加し共催する

COOP-JOSO News Letter

常総生活協同組合
発行/副理事長 大石
tel:050-5511-3926

2011年度活動テーマ
発酵食品で放射能に打ち克つ健康づくり。人々の協同で被災地復興と大地再生。
発酵と復興

【ものづくり、人づくり、地域づくり】 震災・原発事故から9ヶ月

「脱原発くらし見直し委員会」より、



①被曝1年ホットスポットエリア
「家族の健康調査と生活記録」
の呼びかけ

2011年の家族の行動記録・健康調査

3/15はどこで何をしていたか、3/21はどうした？
一時、田舎に避難した…。新学期がはじまり家に戻った。
6月時点のこの近辺の家の前の放射線量は？(供給担当がわかっています)
線量計を購入して、家の中や庭、通学路等を調べた場合はその記録
子どもの体調はどうだったか…。具合の悪いことはなかったか

脱原発委員会として「記録・調査」を呼びかけます。
(今週のニュースに「調査票」が入っています)

②事故後約1年、ホットスポットエリア「年間外部被曝線量」推定のため
「ガラスバッチによる被曝線量調査」
を実施します。(茨城県内では初)

【期間】 来年 1/15~2/14の1ヶ月間 【対象】 小中学生50名
【申し込み】 中面の申し込み書にて(50名を越えた場合は抽選)



このカタログは12月5回分です

供給は変則3日での短縮供給となります。
12月5回 12/28(水)~30(金)の3日間

○注文書の配布・回収も2週分の回収が続きますが、どうかご協力をよろしく願います。

【年末・年始の配達予定】

	日	月	火	水	木	金	土
	11	12	13	14	15	16	17
12月	12月2回お届け (注文書は12月4回と5回(おせち)の2回分を同時提出)						
	18	19	20	21	22	23	24
	12月3回お届け (注文書は1月1回と1月2回の2回分を同時提出)						
	25	26	27	28	29	30	31
	←12月4回お届け→		←おせち(12月5回)→		休		
	月火コース	水木コース	金コース	月火コース	水木コース	金コース	
1月	1	2	3	4	5	6	7
	休			休	←1月1回お届け→ 月火コース 水木コース 金コース		

【12/1 第4回「脱原発・くらし見直し委員会」】

○「組合員健康調査・生活記録」の呼びかけ。統計調査。 ○累積被曝線量調査(外部被曝)、尿検査(内部被曝)を実施します。

【被曝1年、健康調査・生活記録】

委員会では、ホットスポットエリアと言われる茨城県南部・千葉県東葛エリアの被曝1年後の「家族の健康状況調査、生活記録」運動を呼びかけます。

別紙「記録票(調査票)」をもとに、家族それぞれの健康状態がどうだったか、どこにいたのか等「1年をふり返って」頂き、記録に残しておくこと、またその時期の空間線量等がわかっている場合はその線量の情報を記録しておきましょう。

○家族の健康状態

家族で健康を崩したか、貧血・めまい・鼻血・のどの痛み・頭痛・風邪をひきやすい(免疫力の低下)・視覚の障害等はなかったか。

○生活環境の記録

特に、大量の放射能が降り注いだ3/15、3/21は家族がどこにいたか、何をしていたかを、手帳などを見返しながら、思い出して記録しておきましょう。また、3/17以後の水道水汚染による内部被曝の資料となる水道水の放射能濃度の記録を行政のHPから(母乳調査をされた方は母乳の検出結果等を)。ペットボトル水使用等。

3.11時点でお腹に子どもがいて、その後出産された方は、誕生前はお母さんの状況を記録。

春休みは実家に避難した、新学期になって戻った等の日付けも記録。



○空間線量がわかる場合

線量計を購入された方もいるようですので、家の中の線量を計っている場合はその月、自宅内での線量の数値を記入。また生協の放射能調査隊などでの周辺公園等の線量や土壌放射能濃度の記録がある場合は、その日時の平均的線量や土壌濃度などの線量を記録。

なお、6月～7月時点での各地区の1kmメッシュで抽出された組合員宅前の0cmと1mの空間線量は供給担当が把握しておりますので、おたずね下さい。

●健康影響の統計調査と対処

「記録票(調査票)」は1部入れてあります。家族分をコピーして記録し、お手元に控えを残して、生協に提出OKであれば提出をお願いします。

生協・脱原発委員会では、組合員番号と居住市町村、年齢だけをキーにして統計を取り、初年度ホットスポットエリアの住民の健康状況の統計をとります。結果に応じて医師等に相談し、専門家からの所見や注意事項も頂きながら、今後の対策や注意点をまとめてゆきたいと思います。

また、これらをもとに国や行政に対しても健康調査や健康診断等の実施を求めてゆきます。

○黒部先生の放射能予防セミナーのかわいいパンフレットができあがりました！



今週、組合員さんに各1部配布いたします。ぜひ知人、友人に手渡ししてお伝え下さい。サークルなどで皆さんにお渡しできる場合は、部数を生協までご連絡下さい。お届けします。今後、集会や街頭で活用してゆきます。

なお、脱原発くらし見直し委員会では続いて小川仙月さんのお話しや発酵食品のすすめのパンフレット制作をすすめます。

【初年度被曝線量の推定】

事故後のホットスポットエリアにおける内部被曝、外部被曝線量を推定できるための「手がかり」を探ることとします。

対象として感受性の高い「子ども」たちを重点とします。

直接的データとして

①被曝線量の実測(外部被曝/ガラスバッチ)

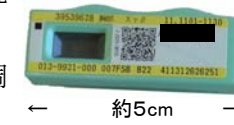
②尿検査(内部被曝/Ge半導体検査器)

のサンプリング検査を実施します。

①「外部被曝」調査(1ヶ月実効線量の実測)

【目的】1ヶ月累積被曝線量の測定から年間被曝線量の推定

【方法】生協エリア組合員のお子さん50名に参加してもらい、「ガラスバッチ」(右下写真)を子どもにつけてもらい、現時点での普通の生活で1ヶ月の累積被曝線量の調査を実施します。



【対象】小中学生 【期間】1/15～2/14

現在、福島の子供たちがつけているものと同様のガラスバッチです。これを、茨城・千葉のホットスポットエリアの子供たちに(事故後1年後の平常期の)1ヶ月間つけてもらい、バックグラウンドを除いた外部被曝線量を測定し、年間被曝量に換算します。福島県外では初の検査となります。

※事前の「予備テスト」として12/5～12/17の2週間で、Aloka社製「ポケット線量計」5台(写真)を使用して、3日間×10名の子どもさんの予備調査を実施します。



これは現時点での「外部被曝累積線量」ですので、学校や公園や通学路の除染が行われた場合は低くはなっていると思います。

調査の際には、周辺環境がいつ除染等が行われたかもあわせて調査させていただきます。

3月のフォールアウト時の各地点の生活地点(市町村1kmメッシュ内ポイント)、及び通学路等の空間線量からモデル的的外部被曝実効線量を計算して上記に加算し、最終的に2011年事故後の「年間実効線量」を計算することとします。

外部被曝の間接データは以下を使用します。
・6～7月時点の組合員宅前の空間線量(生協調査)
・1kmメッシュでの土壌沈着量調査(生協調査および文科省航空機モニタリング調査結果)

これらを総合して算出した年間外部被曝「実効線量」を事故前の空間線量との比較や、年間1mSv基準に比してどれ位のレベルの外部被曝の現実の実態を認識することとします。

なお、これらは田畑や里山での作業被曝を受ける生産者にも実施する予定です。

②「内部被曝」調査

【目的】母乳・尿検査による体内放射能濃度の推定。食品汚染度とその摂取量からの内部被曝の「預託実効線量」の推定

【方法】尿検査。3～4月にかけて母乳検査を実施しましたが、2011年3月にゲルマニウム半導体検査器が生協に入る予定ですので、子供たちの「尿検査」から計画的に実施します。

【期間】2012年4月より開始

【対象】子どもを優先しながら大人まで

(先行実施)常総生協も呼びかけ人になって作られた「母乳調査・母子支援ネットワーク」より茨城県の子どもの尿検査の依頼が来ていますので、12月中旬に10検体の尿検査を先行実施します。

【水・食品由来による初年度体内被曝推定】

汚染された食品由来の経口摂取による体内被曝線量については、生協内部では3月末に5食品分類での予測汚染濃度、世代別の摂取量・係数を用いて「食品由来による年間内部被曝預託実効線量」のシュミレーションを行っておりますが、9ヶ月間の食品汚染実測データに3月水道水の汚染推移を加えて、再度年間内部被曝シュミレーションを行います。

「ガラスバッチ」による累積被曝線量調査に参加を申し込みます

コース名 _____ 班名 _____ 氏名 _____ (組合員No. _____)

住所 _____ TEL _____

お子さんの氏名 _____ 年齢 _____ 歳(学年 _____)